

福島青年新聞

發行日 毎月一回十五日發行
 社址 福島縣石城郡平町田五番地
 印刷所 福島青年新聞社
 電話 一〇八、一〇九、一〇一〇
 定価 半年一圓十錢 一年二圓

内務文部兩大臣訓令と

縣下各地に於ける

青年團の事業 (三)

青年は人生の花ともいふせる青年も其の大多
 べき希望の時代で身體と精氣は事志と合はすして空し
 神と著しく發達すると共に故郷に歸り若しくは闊々
 智識慾向し社交心昂進すとして都門の放浪生活を送
 る時代である。殊に功名心に終つたのである。

憧憬心頗る高潮し來つて或
 は燃ゆるが如き希望となり
 心を培養すると共に都會の
 野心となり、その極動もす
 れば輕舉盲動に出で往々親
 先輩の言を用ひずして獨斷
 獨行する弊にも陥り易い如
 である。青年に尙むべきは
 其發測たる意氣と燃ゆるが
 如き功名心であると共に慎
 むべきは此の意氣と功名心
 との盲動である。

地方青年は其の職業既に農
 村人の過剩に伴ふ必然の
 堅實なるが上に父兄の監督
 寛嚴宣しきを制するが故に
 血氣に逸るが如き弊に陥る
 ことが少い、然しながら青
 春の血潮の高潮する時代に
 於ては徹底せる省察力を缺
 けが故に動もすると輕率な
 る行動を取るに至る。過去
 の地方青年が立志傳中の主
 人公たらんことを夢み意氣
 軒昂男子立志の詩を朗吟し
 て都會に集注したことは天
 下の記憶に新なることであ
 る而も刻苦勉勵素志を貫徹

に過剩の理由を以てして都
 會に集注を奨めんとするが
 情ある説ではないのである

平町の電燈値下問題

愈々具体化する

町會の決議の結果

會社側に正式交渉

平町電燈料金値下げ運動は重ねたが來る町會には之
 過般の町會に於いて數名の提議を審議の上交渉委員
 委員を擧げ各府縣に亘り研を擧げ電燈會社當局に對し
 調査資料を蒐集して調査の歩懇談的に交渉を進めめる筈
 が成つたので十一日午後一つてあるから結局實現され
 時より町役場に委員會を開るものと一般から期待され
 値下げ案に就いての協議である

第二回米收豫想

第一回より八萬餘石減收

十月末日現在調査の縣下本厘の減少である、これは九
 年の第二回米收豫想高は月下旬に於て降雨多かつ
 十一日縣統計課から發表さ早冷を被りたる地方あるに
 したがると水稲百、なほこれを前年の收
 七十二萬四千四百石、陸稻獲高に比べるに十五萬二千
 九千八百二十石合計百七十三萬七千四百石六厘、五
 三萬七千二百三十石にして平均收獲高に比すると
 これを第一回豫想高に比す八萬三千五百三十三石四分八厘
 ると水稲八萬四千四百石を増收してゐる。これを郡
 分六厘、陸稻八百六十石八市別に見れば次の如くであ
 分計八萬四千九百石四分七厘。

| 郡市名 | 第二回豫想 | 前年との比 |
|-----|---------|-------|
| 信夫 | 一〇五、四〇石 | 四八〇石 |
| 伊達 | 一〇八、五二 | 四七四石 |

| | | |
|-------|---------|-------|
| 安達 | 二七、六七 | 一、六六 |
| 安積 | 二〇、七四〇 | 一、九一五 |
| 岩瀬 | 八三、三六一 | 八、八九二 |
| 南津 | 三〇、〇〇一 | 五、二〇〇 |
| 北津 | 七、七二六 | 二、六〇〇 |
| 耶麻 | 一六、九三五 | 九、〇〇一 |
| 大河 | 一〇、三三〇 | 五、四七 |
| 大沼 | 七、七二六 | 二、六〇一 |
| 東川 | 五、九七五 | 九、〇〇八 |
| 西川 | 一〇、四八〇 | 七、八三 |
| 石川 | 六、七九 | 九、一七 |
| 田川 | 九、三三 | 一、八五 |
| 石城 | 一五、八九 | 〇、二五 |
| 双葉 | 八、五五 | 四、八三 |
| 相馬 | 一六、九九 | 二、〇七 |
| 福島 | 四、〇二 | 一、五 |
| 若松 | 二、四八 | 四、三 |
| 郡山 | 一〇、八六 | 一、五〇 |
| 學校試驗場 | 一、七三、三〇 | 二、三 |



時事断片

不況に鑑み自發的に家賃
 の値下を断行せる家主が
 ツ、現れた時節柄奇篤の
 至り。
 ・好況時代の甘い汁を其の
 き、知らぬ顔で吸つてゐる
 とは酷だ。
 ・平町の電燈値下問題愈々
 熾烈、暗中飛躍？ 奏功せ
 ざりしか。
 ・町會の決議を経て委員を
 あげて正式交渉の手續と聞
 け、會社に如何となす。
 ・不況のドン底殊に根強き
 力ありと結局實現を見ん？
 ・野崎對若松兩氏の椅子争
 奮戦は益々猛烈家庭の不和
 は洵に見苦し。
 ・ために石城民政は分裂も
 米收二千石餘の減收豫想な

社告
 今般都合に依り發行所を左記の所に變更致し
 ましたから不相變御指導御鞭達を願ひます
 平町田町
 本社法律顧問 門傳清吾
 一般法律事件の需に應じます

りとの縣の發表。
 ・農村疲弊の聲を聞く事稍
 々久し何とか救済の方策な
 きや。
 ・農は國家の大本也農村の
 疲弊は國家の安危にかゝる
 る青年諸君の奮起を望む
 ・警銀の單獨開業期近づけ
 りと財界のため寔に慶賀の
 至り。
 ・世の中には種々雑多な出
 來事あり
 ・家賃の値下をせる奇篤な
 家主があると思ひば小作料
 の値上をせる地主もある。
 ・而も御本尊は本縣一の多
 額納税者で産業王といはる
 石井村の松本島之助氏と
 聞いては二度吃驚だ。

優良蠶種家の霸王
 芳盛館の發展振り
 石城郡草野村館主芳賀義一
 氏は本縣立蠶業學校を優等
 の成績を以て卒業し、爾來
 東京西ヶ原蠶業講習所に學
 び斯道の研究に没頭し、氏
 の熱心なる功空しからず年
 々地方よりの注文増加著し
 く、一年の蠶種製造高は勿
 論三萬枚に達す。然れ共尙
 不足を生じ伊達方面より芳
 盛館製造代用品を補填し居
 る共、何れも芳賀氏製造種
 より劣等の爲め、氏も大
 に感ずる所あり。近き將來
 に於ては従來の製造工場を
 擴張し一般需要家に應ずる
 由、國産品奨励の爲君の前
 途益々多幸にして且つ健在
 を祈る、

・昨年の暮十圓札を拾ひそ
 のま、全部使ひ果した買つ
 た品を見ると心が暗くなる
 ・不取敢五圓を送るから落
 し主に返してくれ残金は年
 内に返すからとの事だ。
 ・人の性は善混獨の世にさ
 ても珍らじき青年哉。

社會淨化に就て

佐藤 久

往昔の武士は日常の衣服に義を解しないといふ様に所
 祖先の功績を象徴する紋所謂人情美が等閑に附されて
 をつけて居つた、そうして来た傾きがある。物質文明
 片時もこの紋所を冒瀆するは發達しても精神文化は遅
 様な不正行爲をするを恥ぢ
 た、一朝不倫の行爲の犯せ
 ば一家揃つて自刃を強要し
 た。然して家門を重んじた
 のであるといはれ、幼少
 の折聞かせられた『武士
 二言なし』武士は死する
 も泥田の水を飲まず』と
 つて氣骨稜々たる高潔な
 氣品は常に四民の上に
 崇敬されて居つたので
 有る。然るに現今は漸
 特有の武士道も其の影
 なくなつて、將に立消
 らんとするを精神作興
 高唱する政治家教育家
 て不倫の行を敢てして
 して恥ぢず不正手段は
 と免疫性になつてを斯
 くんば如何に鳴物入り
 民精神作興思想善導を
 も羊頭さ揚げて狗肉を
 のそしりを受けるであ
 も辯解の辭なからん。政
 家教育家の一舉手一動は
 ちに國民思想に大なる
 をもたらすと謂ふこと
 を到す秋決つして之等
 過すべきでないと思ふ。
 現代は黄金萬能の世とな
 マルクスの唯物論の様
 のが盛んに肯定され恩
 り金を借りても元利を
 ばプラスマイナス何等

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|----------------------------|--|-----------------------------|---|---|----------------------------|---|---|--|---|----------------|-------------------|-----------------------|-----------------|
| 草野村 草野村村長 高岡 唯一郎 | 村會議員一同 大場 仙吉 佐川 道太郎 木村 幸雄 | 神谷村 村長 佐藤 久三郎 | 芳賀 憲雄 芳賀 義一 芳賀 辨之助 芳賀 源吉 松 陽 館 | 赤井村 赤井村長 根本 忠松 | 鈴木 金一 松本 酒造店 松本 源吉 井上 純 相田 欽衛 | 村會議員一同 石橋 儀作 安藤 力 松本 金治 | 小川村 小川村長 國井 義 | 猪狩 一司 大平 章 平野 西松 大平 壽男 磐城煉瓦會社 | 消防組頭 草野 正壽 大森 又重 吉田 榮男 吉田 仙次郎 | 古市粘土石炭採掘所 有志家 木田 嚴吉 筒井 桑次 鈴木 和市 吉田 佐内 | 消防組頭 草野 正壽 大森 又重 吉田 榮男 吉田 仙次郎 | 小川校長 田久 徳次郎 | 小名濱・湯本間 馬目自動車部 | 小名濱・湯本・上遠野間 高岡自動車部 | 泉・小名濱 大平自動車部 |
|-------------------------------|---|----------------------------|--|-----------------------------|---|---|----------------------------|---|---|--|---|----------------|-------------------|-----------------------|-----------------|

| | | | | | | | | |
|--------------------------------|----------------------|------------------------|------------------------|---|----------------------------|-------------------------------|-----------------------|---|
| 山崎合名會社 醸造 元 電話 十番 | 三井吳服店 平三丁目 | 永澤西洋洗濯店 平一丁目 | 宮崎洗張店 平田町五番地 | 山野邊藥局 美神丸 別府礦水 藥劑士 山野邊東次郎 | 秋山材木店 材木商 植田町 | 市原醫院 外科 内科 元警城病院 | 木村醫院 婦人科 外科 | 釜屋商店 良品に優る宣傳なし 確實勉強はの生命なり 電話 九番 |
|--------------------------------|----------------------|------------------------|------------------------|---|----------------------------|-------------------------------|-----------------------|---|